

令和4年度 全国私立中学高等学校
私立学校特別研修会
英語 5 技能教育特別部会
(西日本エリア)

実 施 報 告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催／日本私立中学高等学校連合会 後援

国においては、グローバル化への対応の一環として、小・中・高等学校等を通じた抜本的な英語教育改革を推進しています。これを受け、大学入試の英語でも 4 技能の総合的な評価が拡大しており、各学校においてはこれらへの対応は喫緊の課題です。さらに、欧州評議会が作成した外国語学習者の言語能力を測る参照基準 CEFR では、学習者の自己評価においてコミュニケーションの形態を 5 技能に分類しています。

そこで当研究所では、私立学校の英語教育担当教員の指導力強化を図るため、前年度の 4 技能教育から更にレベルアップした 5 技能教育に係わる特別研修事業を、東日本エリアに続き、西日本エリアでも実施します。

◆ 会 期 ◆ 令和4年9月8日(木)・9日(金)

◆ 会 場 ◆ [修道中学校・修道高等学校](#) 広島市中区南千田西町 8-1
 (広島電鉄御幸橋駅より徒歩 5 分)

◆ 参加人員 ◆ 45 名

◆ 参加対象 ◆ 私立中学高等学校の英語科教員 (ワークショップは英語で行われます。)
 ※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

◆ プログラム ◆

○学校視察	修道中学校・修道高等学校 (中学 1 年生から高校 3 年生までの英語の授業)									
○視察校実践発表	テーマ 「次代のリーダー育成を見据えたアウトプット技能」 発表者 恵島 聖 修道中学校・修道高等学校英語科教諭									
○研究協議	修道中学校・修道高等学校の英語科の先生方を交えての意見交換									
○Workshop	テーマ 「Teaching interactive, integrated-skills lessons」 発表者 Ross Malcolm Trainer of English, British Council									
○研究協議	講師を交えての意見交換									

◆ 日程概要 ◆

時刻	9		10		11		12		13		14		15		16		
	30		55	15		5	30		5	30 45		45		5	5 30		35
9月8日 (木)	受付		開 会 式	視察校 紹介	視察校 実践発表	授業視察 (3限)		昼食		授業視察 (4限)		施設 見学	研究協議		Workshop Session1		
9月9日 (金)			Workshop Session2				昼食		Workshop Session3				研究 協議	閉会式			

◆ 日程表 ◆

9月8日(木)

〔会場 修道中学校・修道高等学校 南館西5階 十竹ホール〕

9:00 9:30	◆受付〔 本館 1 階ロビー 〕			
9:30	◆開会式			
	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長			
	1. 開会			
	2. 主催者挨拶	吉田 晋	一般財団法人日本私学教育研究所理事長	
	3. 視察校代表挨拶	田原 俊典	修道中学校・修道高等学校校長	
	4. 研修会運営方針説明	平方 邦行	英語 5 技能教育特別委員長	
	5. 日程説明	岡本 貴行	修道中学校・修道高等学校教諭	
9:55	6. 閉式			
9:55	◆視察校紹介			
	司会 岡本 貴行 英語 5 技能教育特別委員			
10:15	紹介者	上田 道浩	修道中学校・修道高等学校高校教頭	
10:15	◆視察校実践発表			
	司会 岡本 貴行 英語 5 技能教育特別委員			
	テーマ	「次代のリーダー育成を見据えたアウトプット技能」		
11:00	発表者	恵島 聖	修道中学校・修道高等学校教諭	
11:05	◆授業視察 (授業は各教室で行います。)			
	3 限 (11:05～12:05)			
	学年・クラス	授業名	研究授業者	教室名
	1 年 1 組	英語	市原	1-1 教室(北館 4 階)
	2 年 2D(2-4 前半)	EC	恵島	404 教室(北館 4 階)
	2 年 2D(2-4 後半)	EC	エドワード	304 教室(北館 3 階)
	2 年 5 組	英語	岡本	2-5 教室(北館 3 階)
	3 年 1 組	英語	成田	3-1 教室(南館 2 階)
	5 年 4 組	英語表現Ⅱ	西川	5-4 教室(南館 3 階)
	5 年 5 組	英語表現Ⅱ	皆戸	5-5 教室(南館 3 階)
12:05	6 年 6 組	C 英語Ⅲ	藤島	6-6 教室(南館 4 階)

〔会場 本館3階 大会議室〕

12:05 12:45	◆昼食
12:45 	

14:05	◆研究協議 コーディネーター 黒沼 花織 英語 5 技能教育特別委員
15:05	修道中学校・修道高等学校の英語科の先生方を交えて意見交換を行います。
15:05	◆Workshop Session1 <技能統合型の授業：デモ授業> 司会 佐藤 貴明 英語 5 技能教育特別委員
16:35	テーマ 「Teaching interactive, integrated-skills lessons」 講師 Ross Malcolm Trainer of English, British Council
16:35	初日解散

9月9日（金）

〔会場 修道中学校・修道高等学校 本館 3 階 大会議室〕

9:30	◆Workshop Session2 <デモ授業の分析> 司会 佐藤 貴明 英語 5 技能教育特別委員
11:30	テーマ 「Teaching interactive, integrated-skills lessons」 講師 Ross Malcolm Trainer of English, British Council
11:30 12:30	◆昼食
12:30	◆Workshop Session3 <リーディングとスピーキングの統合型授業ワークショップ> 司会 佐々木雄太 英語 5 技能教育特別委員
15:00	テーマ 「Teaching interactive, integrated-skills lessons」 講師 Ross Malcolm Trainer of English, British Council
15:00	◆研究協議 コーディネーター 中川 千穂 英語 5 技能教育特別委員
15:30	Workshop 講師、参加された先生方で、質疑応答を交えながら意見交換を行います。
15:30	◆閉会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長
16:00	1. 開式 2. 総括 中川 千穂 英語 5 技能教育特別委員 3. 挨拶 平方 邦行 英語 5 技能教育特別委員長 4. 閉会
16:00	解散

◆ 学校紹介 ◆ 修道中学校・修道高等学校（理事長 林 正夫／校長 田原 俊典）

建学の精神「道を修めた有為な人材の育成」は、建学以来、脈々と受け継がれる修道中学校・修道高等学校の教育の柱となっている。1725（享保 10）年の「講学所」創始時にはすでに「学問は自分の身を修めるもの」という教学の精神が示されており、1881（明治 14）年、浅野長勲（ながこと）が校長の山田養吉（十竹：じっちく）に「道徳を修むるを以つて本校の主義とすべきこと」「生徒の品行を正すべきこと」と教学の方針を示している。この建学の精神を実現するため、同校では、教学の目標として「知徳併進」を、その実践に向けた心得として「尊親敬師」「至誠勤勉」「質実剛健」を掲げている。また、同校では 6 年間の一貫教育で「自治向上の精神」を培う。生徒は「今、自分は何をなすべきか、何が最も大切なことなのか」を自覚し、他者との関わりの中で自らを律し、自主性を身につけていく。“責任ある自由”という言葉が示すように、細かな規則で縛らず、学年が上がるごとに生徒の裁量が増す自由な校風は、生徒一人ひとりの自主的で正しい判断に基づく行動に裏づけられた、自治向上の精神が生み出している。

※修道ベーシックルーブリック：「価値観」と「スキル」の 2 つの観点から示された「修道生として目指すべき姿」に向かって、生徒が自分の力で成長していく取り組み。「世界貢献」や「人間関係力」など 9 つの領域に 23 のテーマがあり、自分のレベルを高めるために必要な姿勢や行動をわかりやすく示している。毎年 2 回、自分の言動や行動をテーマごとに振り返り、「修道生として目指すべき姿」にどこまで近づいているか 5 段階の指標で確認する。自分の「現在地」を定期的に把握し、6 年間で着実にレベルアップを重ねていく。

※FLP（フューチャー・リーダーズ・プログラム）：FLP は、「未来のリーダー」としての資質と能力の向上を目指すプログラム。海外で学ぶ「UNSW コース」と国内で学ぶ「SHUDO コース」のいずれかに参加し、英語 4 技能はもちろん、「思考力・判断力・表現力」を育む多彩なプロジェクトに挑戦する。修道ベーシックルーブリックを土台に据えて、多様な文化的背景を持つチームで協働し、新しい価値観を創造するクリエイティブな能力も開発していく。高い志と自身の可能性を育み、グローバル社会で人生を切り開く力を身につけるプログラム。

◆ 講師プロフィール ◆ Ross Malcolm Trainer of English, British Council

タイ、マレーシア、南アフリカなどでの教師や試験対策を含め様々な年代に対する指導を経て、2015年から日本の文部科学省や教育委員会等の教員研修で講師及び教材開発を担当。修士（チチェスター大学）。専門は、外国語教師の専門性の向上。高等学校英語コミュニケーション用検定教科書「ENRICH LEARNING I」（東京書籍）の編集協力者。

ブリティッシュ・カウンシルは、世界各地で教育省等と連携し、英語教育を支援するプロジェクトを多数展開。日本では文部科学省や教育委員会等実践的な英語指導法についての研修を実施したり、セミナーやコンファレンスを通して、指導者のスキルアップの機会を提供している。また、教材開発や組織単位の英語教育改革を支援するコンサルティングも行う。教員研修トレーナーは全員 CELTA 及び DELTA（大学院修士号と同等資格）を保有。

◆ Workshop 概要 ◆

テーマ Teaching interactive, integrated skills lessons

9月8日（木）

Session 1 16:00-17:30(90 分)	技能統合型の授業：デモ授業 入試で出題された教材を使用し、スピーキング活動（やり取り）を取り入れた技能統合型の授業を体験する。
--------------------------------	--

9月9日（金）

Session 2 10:00-12:00(120 分)	デモ授業の分析 デモ授業の分析を行い、指導のポイントを理解し、指導スキルの練習を行う。
Session 3 13:00-15:30(150 分)	リーディングとスピーキングの統合型授業ワークショップ リーディングの事前及び事後活動にスピーキングが含まれた授業を計画し、マイクロティーチングを行う。

Skills and knowledge

As with any kind of performance, the skills of reading and interactive speaking are composed of multiple sub-skills. In tennis, we need to learn how to serve, volley, lob and smash. In interactive speaking, we need to learn how to formulate our thoughts, quickly access the appropriate words and phrases to express those thoughts and monitor our speaking partner's understanding and reaction. Reading comprehension is also a mentally active process, made up of multiple subskills, from basic decoding to recognising language structures, verbal reasoning and the integration of relevant background knowledge. These sessions will give you an insight into the different components of reading and speaking that teachers need to be aware of when planning and teaching lessons. It will also give you practical classroom strategies to deepen students' understanding of texts while integrating realistic interactive discussions. You will have a chance to analyse and practise different teaching techniques and strategies, such as:

- ・ *Modelling discussions*
- ・ *Choosing appropriate spoken language input*
- ・ *Strategic use of Japanese*
- ・ *Other forms of scaffolding*

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

Ross Malcolm	Trainer of English, British Council
田 原 俊 典	修道中学校・修道高等学校校長
上 田 道 浩	修道中学校・修道高等学校高校教頭
恵 島 聖	修道中学校・修道高等学校教諭
吉 田 晋	富士見丘中学高等学校理事長・校長
平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
岡 本 貴 行	修道中学校・修道高等学校教諭
中 川 千 穂	工学院大学附属中学高等学校英語科主任
佐 藤 貴 明	ドルトン東京学園中高等部教諭
佐々木 雄 太	吉祥女子中学高等学校教諭
黒 沼 花 織	洗足学園中学高等学校英語科主任
川 本 芳 久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

◆概要◆

令和4年9月8日(木)～9日(金)、修道中学校・修道高等学校(広島県広島市)において開催した。全国より英語科教員45名が参加し、初日は学校視察や恵島聖・同校教諭による実践発表、同校英語科教員を交えた研究協議、Ross Malcolm・Trainer of English, British Councilによるワークショップを実施した。2日目も引き続きワークショップを行い、参加者は終始意欲的に研修に取り組み、当部会は成功裏に終了した。

9月8日(木)

◆開会式◆

主催者挨拶(吉田晋 当研究所理事長)

修道中学校・修道高等学校は300年近い歴史を誇り、伝統と発展を兼ね備える。このような学校を視察できる意義は大きい。ご協力に感謝申し上げます。コロナ禍を経てオンラインでの交流が盛んになったが、やはり対面での交流は大切だ。研修会を通して、これからの日本の英語教育をリードする先生方が生まれるだろう。今の子ども達に必要なことを積み重ね、リーダーとして各学校や地域で活躍されることを祈念する。



視察校代表挨拶(田原俊典 修道中学校・修道高等学校校長)

高い評価を受けている研修会を本校で開催できて光栄だ。施設見学では時間が限られているが、プールや体育館、コンビニ等の施設も特徴的なので見てもらいたい。本校の英語教育をそのままさらけ出して、ご指導やご意見を今後の本校の教育に役立てたいと思っている。参加者の皆様だけでなく、本校の教員も研修するチャンスだと捉えて、2日間全力でサポートしていく。



研修会運営方針説明(平方邦行 当研究所理事・所長／英語5技能教育特別委員長)

西日本を中心に、関東から九州、沖縄まで各地の先生方にご参加頂いた。4月から学習指導要領が新しくなったが、授業は変わっているだろうか。文部科学省は抜本的に英語教育改革を行う方針だが、本当に変わっているだろうか。大学入試改革も滞っているが、このような状況下でも、私立学校では当然5技能教育を推進して、生徒たちの実力を伸ばしてほしい。研修会の開催にあたり、修道中学校・修道高等学校の皆様のご協力に感謝申し上げます。



◆視察校紹介◆

(上田道浩 修道中学校・修道高等学校高校教頭)

本校は1725(享保10)年創立で、2025年には創立300周年を迎える。広島藩の「講学所」を起源とし、藩校をルーツに持つ学校としては、日本で唯一の私立学校だ。中学校は46名6クラス、高校からの入学生が24名おり、50名6クラス、中高合わせて生徒数1,700名の男子校だ。2年毎に初級・中級・上級と分かれている。また、時間割は曜日ではなくA～Fのパターンで36コマ作っており、月曜日から順番に授業がある日に入れていき、各教科のコマ数が確保できるシステムとしている。



本校ではベーシックルーブリックを作成している。建学の精神「道を修めた有為な人材の育成」と、教育方針「知徳併進」に沿って、具体的にどのような力を付けていけば良いのかルーブリックを作って生徒と教員が検証する。年間2回、生徒達は自分がどのレベルまで達しているのか自己評価をして分析している。

また、2019年からは中学3年の授業日を使ってフューチャー・リーダーズ・プログラム(FLP)を実施している。将来の目標を見据え、それを実現するために今から何をしていくべきか、約2週間のプログラムの最後には各自が英語で発表する。国内コースと海外コースのいずれかを選択するが、コースは希望通りとし、選抜はしない。実際にはコロナ禍の影響を受け、まだ海外に行くことはできていない。このプログラムを柱にしながら、6年間の学びを進めていく。

◆視察校実践発表◆

「次代のリーダー育成を見据えたアウトプット技能」（恵島聖 修道中学校・修道高等学校教諭）

English Communication(EC)の授業では初級 2 年間で自分・修道・広島の 3 つの身近なテーマに分ける。初級には本校ならではの行事が沢山ある。これらの行事で学んだこと、経験したこと、肌で感じたことを活かせるように学習内容をリンクさせている。生徒が持ち合わせている背景知識を土台に、特性や力を十分に発揮できる授業を心がけている。使用する自著テキストは、2019 年度に 1 冊目を出版し、今年で 4 冊目になった。生まれ育った広島、通い慣れた修道には沢山のコンテンツがある。なかなか英語で伝えられず、悔しい思いをした生徒をどうにかしてやりたいという思いでテキストを作った。2020 年には隙間時間で取り組める EC 専用の学習サイトを開設した。



本校は 2003 年に海外研修をスタートし、2016 年度からはシドニー市のニューサウスウェールズ大学(UNSW)にてオリジナルプログラムに取り組んできた。これを 2019 年度から、オーストラリア現地で学ぶ UNSW コースと国内で学ぶ SHUDO コースのいずれかに参加する全校的な教育プログラム、FLP へと進化させた。どちらのコースも、グローバル社会に貢献するリーダーとしての力量を高めるというゴールは変わらない。2020 年度はコロナの影響で UNSW コースの一部を国内コースに統合し、Intensive English Program(IEP)と Empowerment Program(EMP)で交互に学ぶ国内版 FLP とした。2021 年度も国内版 FLP を実施したが、26 カ国から 40 名以上の外国人講師と留学生が来校し国際色豊かな雰囲気です。10 日間のプログラムを終えることができた。今回の研修で鍛えられた力について聞くと、仲間と共に高みを目指そうとする意識や、身体表現やプレゼンテーションツールを効果的に活用する力が最も多く、その後の修道ベーシックループリックの自己評価でも、この 2 つが高い結果となった。EC や FLP で経験を積み、高校 2 年生から Further Communication(FC)の授業を受ける。ここでは好きなトピックについての動画作成や、アフレコ、ペアプレゼン等を行っている。

本校は 3 年後に 300 周年を迎える。過去や未来ばかりにとらわれずに、目の前にいる生徒と徹底的に向き合いながら、教員一丸となって指導に当たっている。

◆授業視察◆

参加者は 3 限、4 限の授業を視察した。「様々な学年・科目の授業が視察でき、有意義だった」などの感想が寄せられた。



◆施設見学◆

（上田道浩 修道中学校・修道高等学校高校教頭）

校内に展示された絵画や、図書閲覧室、記念品室を見学した。参加者からは、「現在まで深い歴史が受け継がれている点が参考になった」との声が寄せられた。



◆研究協議◆

修道中学校・修道高等学校の英語科教員が参加者からの質問に答えた。その後は少人数のグループに分かれて意見交換を行った。

Q1 授業について

- ・文法指導：復習を兼ねながら進める
- ・英語が苦手な生徒への対応：繰り返し継続して学ぶ習慣をつける（ユメタンを中 1 から導入し、単語暗記で自信をつけさせる）
- ・DeepL の活用：完璧ではないことを理解した上で使用させる
- ・学級のまとまり：授業のリズムが確立されており、安心して参加できる環境がある

Q2 修道ベーシックループリックにある世界貢献への進め方

- ・生徒の自己評価→学年教員で共有→学校全体で傾向を共有する
- ・中 2 で平和学習を実施し、市内慰霊碑を巡る



◆Workshop Session1◆

Teaching interactive, integrated-skills lessons

(Ross Malcolm Trainer of English, British Council)

スピーキング活動(やり取り)を取り入れた技能統合型の授業を体験した。



○Speaking in reading lessons のタイミング

Before reading ・ During reading ・ After reading

○Before reading : Buy Nothing movement の広告から考える

- ・最初に質問を投げかけ、個人で答えを考える 例) If you do less shopping, you ...
Is it possible to "buy nothing"?
- ・続いてパートナーに考えを伝える 例) It doesn't sound realistic, because...

○During reading ・ After reading

○Part1 読む→考える→ペアに伝える

- ・【Paragraph1 を読む】 下線部、イギリス人が買い過ぎてしまう理由を 2～3 抽出する
→SNS の誇大広告・オンラインでの手軽さ・安い値段
- ・【Paragraph2 を読む】 イギリス人が抱える買い物における問題点を抽出する
→クレジットカードの使い過ぎ・莫大な量の服の廃棄
- ・【Recap: Paragraphs 1 and 2】 複数のキーワードの記載段落を確認する
- ・【Paragraph3 を読む】 服の寄付が服の廃棄問題の解決にならないことを日本語で話す
- ・【Part1 summary】 複数のキーワードを提示し、要約を英語で述べる

○Part2 読む→考える→ペアに伝える

- ・【Paragraph4,5,6 を読む】 6 より筆者から読者への提案を掴み、英語で述べる
- ・【Grammar focus】 写真から、You can~by doing...を使用した文章を考え、伝える
- ・【Reflection】 思い出す・考える→共有する
→Environmental/Human cost を思い出し、伝える
→Buy Nothing Day の悪い面を考え、日本語で伝える
英語で伝える際の用語を教授し、使ってみる。ペアを変えて練習する

9月9日(金)

◆Workshop Session2◆

- 【Review】デモ授業の続き Environmental and human cost を思い出す
- 【Reflection】一人で考える→日本語でペア共有→Reaction 例を示す→相手を変え共有
- 読む力のロープ 言語の理解と単語の認識が読む力を構成する：背景知識、語彙、言語の構造、言語による理解と推論、一目で認識できること、文字の音声化、音韻認識
- 【Discussion】それぞれの項目について「どの学年でどのように」学ばせているかペアでシェアする
- 読解の指導：読解の障害とその解決法
 - ・語彙：日本語や絵を用いる、平易な英語への置き換え、またはその組み合わせ
 - ・わかりにくい文章（語彙、文法、情報過多、節の構成などによる）：
教員のモデルリーディング（重要語の強調・まとまりを意識した読み方）具体的な読む目的の設定
 - ・背景知識：視覚の活用、簡潔に短く、負荷をかけ過ぎない
- 話す技能の指導
 - ・Retelling と Discussion の違い
 - ・目的の違い：Retelling は練習、Discussion は相互のやり取りを要し、新しい情報を得ること
 - ・使用英語の違い：Retelling は語彙・文法・構文に、Discussion は内容・テーマ・人物に焦点を当てる
 - ・必要な支援：Discussion は考える時間が必要
関連語の新たなインプットも有効
- 【Discussion】4人1グループで「Buy Nothing Day を日本に導入するとしたら良いか」2人で話し合い、残りの2人がキーワードを抽出する。
- キーワードが自ずと出てくるが、生徒に議論させるときに重要なのは、型にはめ込み過ぎず自由に表現させること



◆Workshop Session3◆

- A new text：1951年に出版された、Isaac Asimov 著の『The Fun We Had』を使用
- Pre-reading：ペアで活動し、テキストへの興味関心を引き上げる
- During reading
 - ・Vocabulary：ペアで活動し、テキスト中で扱いたい語彙を共有
 - ・Tricky sentences：生徒が理解しにくいと思われる複雑な文章を分解し、わかりやすくする
 - ・Background knowledge：作品が書かれた時代背景(1951年)を考慮し、適宜足場掛けを用意する
- Post-reading：テキストの内容に、個々の生徒が自分ごと化できるような仕掛けを用意する

◆研究協議◆

参加者は少人数のグループ毎に Workshop での学びについてディスカッションし、全体へ共有した。その後、講師への質疑応答を行った。

- グループディスカッション「研修での学びを授業でどう生かすか」
 - ・授業で使える Useful Expressions が参考になった。Content-Based Approach は生徒も楽しめてよい
 - ・これまでは英語を使って授業をすることにためらいがあったが、これからはもっと使っていきたい
 - ・今回の研修で習ったテクニックを使って、生徒のやる気を高めたい
 - ・簡単に分かりやすい英語を使うと生徒が英語を話すモチベーションにつながる
 - ・ボキャブラリーの説明の仕方が参考になった
- 質疑応答
 - Q1 英語がすごく苦手な生徒には All in English で話し合いをさせるのは難しいのではないかと
・日本語を使うことや、教員がサポートすることが重要。楽しいトピックを提供することでやる気につながるのと、少しチャレンジングなテキストで、難しすぎないものを用意する
 - Q2 英文(200ワード程度)を授業1コマで扱うことが難しいので、数回に分けてもいいかと
・トピックについてディスカッションをすることが大切なので、1回で内容全体を扱い、少なくとも日本語で話し合わせるべき

◆閉会式◆

○総括（中川千穂 英語5技能教育特別委員）

視察校や参加された先生方との情報交換を通して新たな学びがあったと思うが、自分の学校では難しいと思うと前に進まない。失敗したらやり方を変えれば良い。難しすぎれば簡単にすれば良い。教師も生徒も失敗を繰り返して日々の授業を改善していくことへのヒントが得られただろう。授業視察では様々な授業を視察させてもらったが、どのクラスでも生徒達が深く考えている様子が伝わってきた。英語の授業も単語や発音だけが重要なのではなく、結局は考えることだ。考えるときには言語を使う。それは日本語でも英語でも変わらない。新たな発想や取り組みによって、英語教育を一層発展させていきたい。



◆参加者アンケート◆

<回収率 44%>

視察校紹介

- ・修道中学校・修道高等学校の取り組みが分かり良かった。
- ・修道ベーシックループリックが深い次元で考察されていた。1つの指針に向かって全ての活動が組み立てられていることに感銘を受けた。

視察校発表（恵島先生）

- ・自作の英語教材などに刺激を受けた。生徒たちとのやりとりも色々と参考になった。
- ・自分たちが行っている授業とは大きく異なり、新しい視点が得られた。

授業視察

- ・様々な学年、科目の授業が視察できて有意義だった。
- ・先生方それぞれでやり方が違い、良い点をたくさん見ることができた。

施設見学

- ・素敵な施設だった。校長先生の熱意がすばらしかった。
- ・深い歴史があることを知り、現在にその歴史がしっかりと受け継がれている点が参考になった。

Workshop

- ・即実践できるテクニックが沢山あった。自分の授業に反映したい。
- ・英語が苦手でも All in English の授業を成り立たせるための様々なポイントを学べた。

研究協議（視察校/Workshop）

- ・他校の先生方との交流を通して、様々な教科指導の悩みなどを共有できた。
- ・経験ある先生方の意見が聞けて良かった。

◆ 都道府県別参加人数 ◆

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	0	千葉	1	滋賀	0	香川	0
青森	0	神奈川	0	京都	0	愛媛	0
岩手	0	東京	4	大阪	7	高知	0
宮城	0	富山	0	兵庫	0	福岡	3
秋田	0	石川	0	奈良	3	佐賀	1
山形	0	福井	0	和歌山	0	長崎	1
福島	0	山梨	0	鳥取	1	熊本	2
新潟	0	長野	0	島根	0	大分	2
茨城	2	岐阜	0	岡山	2	宮崎	0
栃木	0	静岡	4	広島	4	鹿児島	1
群馬	0	愛知	3	山口	2	沖縄	1
埼玉	0	三重	1	徳島	0	19都府県	45人